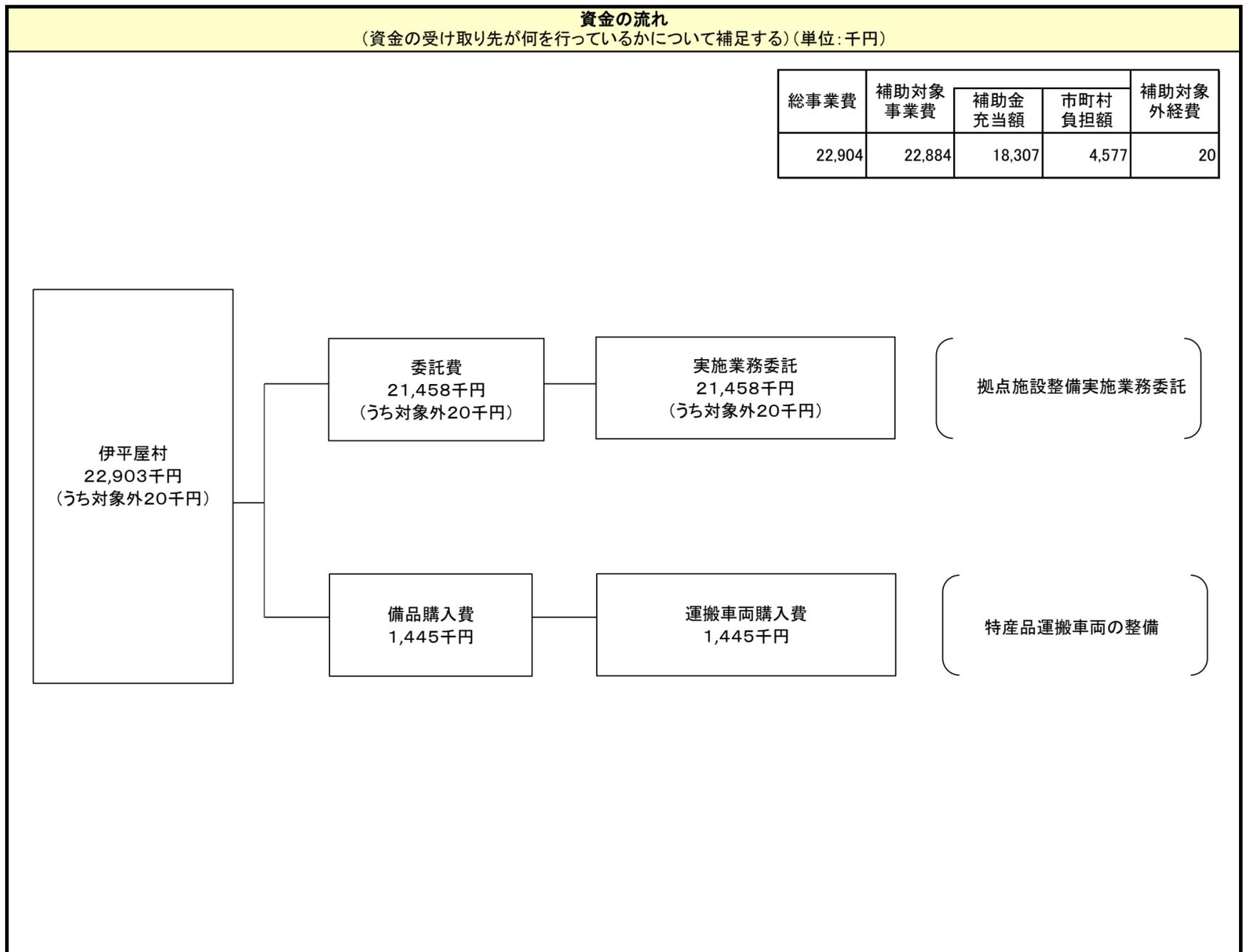


市町村名	伊平屋村						
<b>令和4年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート</b>							
事業名	伊平屋村特産品を活かした自立促進支援事業	事業類型	<input checked="" type="checkbox"/> 産業振興 <input type="checkbox"/> 定住促進 <input type="checkbox"/> その他				
担当部課名	企画財政課	現年事業または繰越事業 <input checked="" type="checkbox"/> 現年事業 <input type="checkbox"/> 繰越事業	事業実施(予定)年度 令和4年度				
事業内容	本村の商品製造技術・開発力などの経営ノウハウ獲得・向上を外部企業と連携し技術移転や人材育成などの支援体制構築による課題解決を図る。また、村内で就労を希望する心身的弱者の雇用の場となる拠点を整備することで、特産品の製造・販売を通じた地域活性化を商福連携により推進する。						
先導性等に係る取組	<input checked="" type="checkbox"/> 自立性 <input type="checkbox"/> 官民協働 <input type="checkbox"/> 離島地域特有の条件不利性に起因するもの	<input checked="" type="checkbox"/> 政策間連携 <input type="checkbox"/> 事業推進主体の形成	<input type="checkbox"/> 離島活性化を担う人材の確保・育成 <input type="checkbox"/> その他				
効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和5年度)						
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他( )						
予算額・執行額 【単位:円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)		令和4年度					
	予算の状況	当初予算額	22,885				
		増減額	0				
		予算現額	22,885				
		前年度から繰越	0				
		翌年度へ繰越	0				
		計(A)	22,885				
	執行済額(B)	22,884					
	うち補助金充当額	18,307					
	不用額	1					
執行率(%) (B/A)	100.0%						
予算の状況の説明	当初の計画通り特産品の製造に係る拠点整備等を実施し、事業は適正に執行できた。						
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)		達成状況				
			令和4年度	令和5年度			
	施設拠点整備	目標	整備完了				
		実績	整備完了				
	特産品製造の外部委託	目標	-	1件			
		実績	-	1件			
達成状況説明	・令和4年度中に施設拠点整備が完了し、目標を達成することが出来た。 ・新たに開発した商品(黒糖入りスイーツ)製造を島外事業者へ外部委託することにより、製造技術や経営ノウハウを島内雇用に指導しながらPB商品の製造と販売促進の実施が出来た。						
成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)		基準値(R4年度)			後年度目標値(令和5年度)	
	特産品販売数・売上額	目標	-			販売数52,800個／売上額15,840千円	
		実績	-			販売数3,091個／売上額917千円	
	成果目標(指標)		基準値(R4年度)			後年度目標値(令和5年度)	
	心身的弱者の延べ就労数	目標	-			4名	
		実績	-			4名	
進捗状況説明	・PB商品の4件開発し、総実績において販売数3,091個および売上額917千円により、5%に留まった。 ・新たな商品開発において、商福連携による雇用創出を図り心身的弱者の就労者を4名雇用し、社会基盤の構築を図った。						

取組の検証	成果目標に対する原因・要因分析	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発する特産品に時間を要したため、販売する期間が令和6年1月～3月までの期間しか確保出来なかった。また、賞味・消費期限が短いことも、販路拡大の課題となっている。</li> <li>・安定的に商品を製造するため、保健師の指導や就労者からの要望を踏まえ、就労者の状況に応じた日程調整と作業時間の固定化を図る必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・黒糖入りのどらやきやプリン・パイなどの新たに開発した商品の特産品として安定的に製造し、販売数の維持・向上を図るため冷凍食品(または冷蔵商品)としての保存方法を検討し販路拡大の取り組みを行う。</li> <li>・各関係機関と調整し、保健師等からの助言から就労者の負担を考慮し、平日の3日間(月・水・金等)の日程調整を検討し、安定的な作業と効率的な運営を推進する。</li> </ul>
<b>今後の取り組み方針</b>		
<p>・新たに開発した商品を安定的に製造し、長期的な保存方法(冷凍または冷蔵)による販売数の拡大と雇用確保を推進するため、各関係機関と連携を図り島内販売店やインターネット等(ふるさと納税等)を活用した新しい商品開発による産業の活性化を令和6年度末までに実施を図る。</p>		



資金の 用途の 流れ、 点検 評価 ・ 費目	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託費・備品購入費において専門性を有する観点から仕様書を整理し、随意契約による事業者を選定したため妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	事前に参考見積を徴収し、金額の妥当性を確認したうえで事業内容に必要な規模と判断したため妥当と考える。
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	-
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費目・用途については、事業目的達成の観点から必要なものなのか等について完成時の支出等に関する書類の検査確認をし、必要と判断した。